

令和 4 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： グループホーム ぽっかぽか花巻中央

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390500056		
法人名	株式会社 グランツ		
事業所名	グループホーム ぽっかぽか花巻中央		
所在地	〒025-0055 岩手県花巻市南万丁目1163-3		
自己評価作成日	令和4年10月31日	評価結果市町村受理日	令和5年4月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

陽だまりの中に居るような「ぽっかぽか」と暖かく親しみやすい事業所を目指している。「ご利用者様、ご家族様の願いを叶える」という理念の下、これまでの暮らし、ご本人の能力や趣味、意欲を活かし役割や遣り甲斐、楽しみのある生活を送れるような支援を行っている。利用者様の楽しみや喜びに繋がるように毎年度テーマを考えている。今年度は「観配り・聴配り・心配りと声掛け合い」を目標に共有して取り組んでいる。研修の機会は毎月事業所内で内部研修を行う他、コロナ禍で外部研修に参加が限られているがオンライン研修などに参加をしている。また、地域や外部との関わり合いが難しい生活の中で買い物支援の一つとして訪問販売や季節行事を大切にに取り組んでいる。今までは地域の郷土芸能や保育園児の慰問等を受け入れていたが、接触が難しい為、傾聴ボランティア、地域の方から道具をお借りして小正月行事等工夫している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action\\_kouhyou](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、近隣に、小中学校、保育所、高齢者施設などのある住宅地の一角にある。建物1階に小規模多機能事業所、2階部分がグループホームになっている。コロナ禍で、家族、地域との交流、外出の機会が減少していることから、利用者の体力低下を懸念されている。その中でも、地元のコビエンスストアから商品をお借りして月2回、職員による「訪問販売」を導入したり、花巻祭りの山車見学や田んぼアート見学、温泉の足湯、ドライブ外出などを取り入れている。地域から臼、杵の道具をお借りして餅つきをしたり、七夕用に笹竹取に出掛け、ホールに装飾をしたりして、室内でも生活に季節を感じられ、利用者がやりたいという希望、思いを叶えられるよう日々工夫している。職員の外部での研修の機会も減っているが、毎月、身体拘束や虐待防止、アンガーマネジメント、法令順守、チームワーク、認知症などを施設内勉強会として専門領域や職員の関心事など、毎回研修担当者が職員持回りで取り組んでいる。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和5年2月7日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業所名 : グループホーム ぼっかぼか花巻中央

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「願いを叶える」という法人理念に沿って職員育成を行っている。出勤時ご利用者様やスタッフに一人一人挨拶を行いコミュニケーションを図っている。変化を気付いた際は毎日の申し送りや朝礼で情報共有を行い「ご利用者様主体のケア」を行うように互いに声を掛け合っている。	法人理念に加え、職員アンケート結果による意見、考えを持ち寄って、年度ごとに事業所としてのテーマを決めている。今年度は、「観配り、聴配り、心配りと声掛け合い」として、支援の基本を見直す視点で全員が納得でき、利用者、職員双方に通じる聞き覚えやすいワードとして決定した。毎日出勤時に、1階の小規模多機能事業所の利用者、職員にも挨拶をし、利用者とは、一日1回はコミュニケーションをとるよう心掛けている。不定期ではあるが、ミーティングの際に、各自にテーマへの取り組みについて振り返りや気づきの機会を設け、それを運営推進会議にも報告している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で地域との関わりが少なくなっているが地域一斉清掃や資源回収に協力している。季節行事は交流が難しい為、地域の方から知恵をお借りし道具を借りる等関わりを工夫し施設内で季節行事を行っている。また、地域の傾聴ボランティアを利用している。	コロナ禍の下、地域交流の機会が制限されているが、町内会に加入しており、住民所有の臼と杵をお借りしての年末の餅つきや地元のコンビニエンスストアから商品をお借りしての事業所での買い物(昨年から月2回)等職員が工夫を加え、利用者に楽しんでもらっている。また、地元高校生の音楽の授業を通した新たな交流を始めたほか、市の傾聴ボランティアの方が月1回訪問され会話を楽しんでいる。町内会の清掃活動や資源回収の時期に参加可能な方は職員と一緒に活動に参加し、意識的に事業所の住民理解や地域とのつながりが深まるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学時や申込み、相談があった際には、困っているご本人や家族の気持ちに寄り添い認知症の基本的な知識やケア、環境の大切さなどを事業所の方針と交えて説明している。家族会や運営推進会議の場においても同様に行っている。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ぼっかぼか花巻中央

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について 報告や話し合いを行い、そこでの意見を サービス向上に活かしている	併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同 で隔月ごとに開催している。コロナ禍の為書面開 催の場合は電話等で意見を伺っている。季節の 行事や日々の活動報告、避難訓練、事故報告等 を行い地域の代表者から意見や地域行事の情 報交換を行っている。	昨年3月に対面での会議開催以降は、2ヵ月ごと に書面で開催している。委員には、会議資料を直 接持参し、行事や活動の様子のスナップ「写真広 場」と併せ、感想、意見等を聴き取るようにして いる。事故報告やヒヤリハット事例も対応策も含め わかりやすく記載するなど、ホームでの活動の様 子がイメージできるよう意識して資料を作成して いる。利用者や職員の交代参加のほか、年1回 は、警察、地域の方の参加をお願いし、特にも消 防署には、事業所建物の構造等の把握も併せ、 出席をお願いしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取り組み を積極的に伝えながら、協力関係を築くよ うに取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き意見交換を行っ ている。運営上の疑問点は会議や電話等を活用し その都度相談に乗ってもらっている。困難事例の 相談や介護保険外のサービスについての情報 共有を行っている。	コロナ禍で地域ケア会議の開催も少なくなっ ており、情報交換は電話連絡が主となっている。地域 包括支援センターとは、小規模多機能事業所と も関連して入居等利用の相談や入居希望者の 状況などの情報交換をしている。事業運営上の 疑問などがあるときは、市担当課に相談するよ うにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着 型サービス指定基準及び指定地域密着型 介護予防サービス指定基準における禁止 の対象となる具体的な行為」を正しく理解し ており、玄関の施錠を含めて身体拘束をし ないケアに取り組んでいる	新職員には入社時のオリエンテーションにて拘 束について説明を行い周知、他職員は3か月毎 に身体拘束状況やその対策について研修を開催し ている。日頃から玄関や扉の施錠はせずにセン サーを活用し安全確保、連携を図りながら利用 者の声掛けや見守りで対応している。	近年、新職員には介護職経験の方が多いが、採 用時研修として身体拘束の基本事項を再確認す るようにしている。事務室内に身体拘束禁止事 項について掲示し、常時職員が確認できるよう にしている。身体拘束廃止に関する会議は、小規模 多機能事業所と合同で3か月に1回、併せて関連 研修を開催し各回職員持ち回りで担当者となり、 その職員がテーマを選択し講師も務めている。ス ピーチロックなどに対する各自の振り返りも含め た研修としている。夜間帯に玄関の施錠とエレ ベーター、階段に熱感知センサーをセットして いる。ふらつきの強い方は、夜間、居室にセンサ ーをセットして転倒防止に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅 や事業所内での虐待が見過ごされること がないよう注意を払い、防止に努めている	定期的に虐待防止について研修を行い職員同 士声を掛け合いを行っている。見逃す事の無い よう声を掛け合っている。先輩スタッフから新人 スタッフへの教育を行っている。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ぼっかぼか花巻中央

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は成年後見制度に触れる機会がなく理解できていない。学ぶ機会を持てるようにしたいが制度が複雑な為指導出来る者も居ない現状。ご利用者が制度が必要かを検討する事もあるが、今後研修会を開催できるよう検討して行きたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にサービスの内容、重要事項、料金等の説明を行い、ご本人様やご家族様の不安や疑問を理解と解消し納得して頂けるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の生活に関する報告の中で要望等があれば伺う様にしている。コロナ禍の為ご家族様の運営推進会議等は書面開催にし、実績・活動報告・事故報告等の意見を聞き取りしている。	コロナ禍が一時期落ち着いた、8、9月頃に屋外で家族との面会を行っていたが、最近では、ガラス越しでの面会としている。毎月の小遣い銭の預かりや介護計画書の署名をいただく際などに、利用者の近況をお知らせし、家族からの要望等を受けようとしており、併せて家族には、運営推進会議の資料を送っている。家族会があり、以前は年2回程度開催していたが、今年度は開催していない。携帯電話を持っている利用者は、LINEで家族との連絡をとり家族から面会希望をメールで伝えてきたりしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	面談等をこまめに実施出来ることが望ましいが時間がとれない時などは日々の雑談の中で気軽に意見を求める等行っている。職員と共に支援業務に従事し、現状把握やご利用者様のケアに関する意見をこまめに行っている。	職員との個別面談は年度初めに実施し、目標や希望、悩み、困りごとなどを確認している。コロナ禍で利用者の外出の機会が減っていることから、職員・管理者間の会話(アイデア)から訪問販売の導入を行い、環境改善につながった事例がある。随時、個々の思いに耳を傾けるように心掛け、職員の特性を尊重し、得意な面を引き出すようにしており、介護福祉士資格取得にチャレンジした職員もいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	新人職員には機能評価を実施し、得意、苦手な事を明らかにし必要であれば教育を行っている。意欲、能力のある職員に対しては、具体的な目標を共に上げ遣り甲斐を感じられるよう努めている。職場に対する意見や提案を聞き入れる場として職員にアンケートや面談を持つ事もある。		

事業所名 : グループホーム ぼっかぼか花巻中央

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員はローテーションで毎月関心のあるテーマに関して勉強会を開催している。コロナ禍で外部研修に参加は少なくなったがオンラインなどの研修を活用している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人の他事業所職員と意見交換等ができるよう、季節の行事などには職員が交代で参加できるように取り組めるようにしている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様、ご家族様等関係機関からご本人の健康状態や困っている事、興味を持たれている物等を把握する為コミュニケーションを大切にしている。また同時に安心して頂けるよう関係作りを指導してる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前の相談の段階で困っている事や要望を伺い、ニーズを計画書に意向を反映している。特に最初の段階では丁寧に連絡を取り合うよう心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容が他の居宅介護サービス利用によっても解決可能と考えられる問題であれば、当法人内のケアマネージャーにも同席や相談を求め必要と思われる支援を検討、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はご利用者様と一緒に調理や洗濯物たたみ等家事仕事を共に行っている。月一度の手作りランチ会等で郷土料理や知恵を教えて頂き、お互いに支え合う関係が築けるよう心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	体調が不安定な時などは連絡を行っている。日頃からご家族様とこまめに連絡を取り、施設内での様子を写真を配り報告し、暮らし方や本人の状態について理解して頂けるよう努めている。		

事業所名 : グループホーム ぼっかぼか花巻中央

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室や地域行事など、生活の中で大切にしてきた事を継続出来るように支援している。コロナ禍で外出に制限があり買い物等は難しいが、ドライブや短時間でのおやつ外食等工夫を行い支援に努めている。	行きつけの美容院を利用している方が1名、他の利用者は2か月に1回の訪問理美容を利用し顔馴染みになっている。花巻祭りの山車小屋に出向き、お祭りの雰囲気を楽しむ、毎年七夕の時期に笹竹を取りに出掛けるなど、季節を感じられるようにしている。地域のコンビニエンスストアから商品をお借りしての訪問販売を開催し、買い物を楽しむことができています。家族等にあてた年賀状を書いてもらい、家族とのつながりも大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症がある利用者様が孤立しないよう、利用者様相互の会話が成り立つよう橋渡し等支援を行い関わりを大切にしよう心がけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方からの相談も受け入れ、繋がりが切れないようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人・ご家族様よりお話を聞き本人らしく過ごしてもらえよう生活歴から想像したり、馴染みの場所に足を運んでみる等の工夫を行っている。	昼食後の草取りや、洗濯物畳み、おやつ作りなど、職員と1対1で関われる時間に、昔話や希望、思いなどを聴き取るようにしている。ランチやおやつ、行事のメニューに反映させたり、帰宅を希望される方には、自宅や育った場所をドライブで巡ったりして希望に添うようにしている。一人一人の希望、好みなどを個別にノートに書き込み、職員間の共有を図りながら支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントの際、今までの生活の様子をご家族、ご本人から話を丁寧に聞くようにしている。また生活習慣について地域、家族との人間関係、サービス利用時の様子等は良く把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝、夕の申し送りとその日の様子、月例ミーティングで1ヶ月の様子を振り返り把握に努めている。日々の職員と利用者との関わりを多く持つように声掛けを行い、状態変化があれば気付くように心掛けている。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ぼっかぼか花巻中央

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	普段の様子観察を行い、変化がある時はモニタリングを活用しながら情報共有し、月例ミーティングやカンファレンス等で意見交換を行っている。サービス計画書の修正が必要であれば、ご本人やご家族様に相談し了承を得て改正している。	介護計画は、入居時の暫定計画策定の際から家族の同意をもとに策定しており、基本的に長期6か月、短期3か月で見直し、利用者の状況によっては、随時の見直しを行っている。家族には2か月毎に「写真広場」でお伝えするとともに、通院結果や変化がある都度電話で報告している。ほとんどの利用者家族は、残存機能の維持、好きなことが継続できることを希望されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別や申し送りノートを活用し情報共有している。レクやケアの記録も、必要時に様子や言動をその都度記録している。ミーティングでそれらを振り返り職員で再確認している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院対応がご家族様の負担になる事も多いと考え、市内の通院は事業所で対応を行っている。コロナ禍になる前はご家族様と外出や外泊の対応を行っていたが、感染予防の為、ガラス越しでの面会や電話等コミュニケーションを図れるよう支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	生活歴をご家族様から聞き取り、馴染みの場所や自宅周辺をドライブを行っている。また、地元の祭りを見学に出かける等できるだけ願いを叶えるよう支援を心掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設に入居される前からのかかりつけ医の所に受診を継続している。状況が変わった場合は、家族様に説明を行い了承を得たうえで適切な治療を受け入れる様に支援を行っている。通院時は多職種で健康状態を確認している。	入居前からのかかりつけ医療機関への受診を継続させてもらっている。通院は職員が同行対応し、市外の医療機関への通院には家族が付添いしているが、定期で受診されている方は少ない。歯科は、訪問歯科はなく、かかりつけ医または近隣の歯科に職員同行で受診している。通院結果は、電話で家族にお伝えしている。看護師が小規模多機能事業所と兼務しており、適宜医師の指示で処置等を行っている。	

事業所名 : グループホーム ぼっかぼか花巻中央

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者様の変化を看護師と共有し、かかりつけ医からの指示で、必要に応じ看護師がご利用者様に適切なケアを行いながら介護職への指導を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	計画作成担当者や管理者が病院と連絡を取り、情報収集を行い介護員に周知している。退院後に安心して元の生活を送れるよう、支援内容の検討等を協議して対応を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や看取りについて意向確認を行っている。終末期が近づいて来た時は、かかりつけ医と施設で連携を取り、出来るだけご本人様やご家族様の意向を尊重出来るような支援を行うように取り組んでいる。看取りへの課題、体制上の問題について、解決あるいは研修ができるように努めている。	数年前に看取り希望されていた方がいたが、快復し、ホームで生活されている。重度化が進んできた方は、特養施設等への変更をお願いしている。他の事業所で看取りを経験した職員もいるが、人員上の課題や、不安を感じている職員もあり、実施に向けた全員の総意は得られていない。訪問看護の受け入れなどを検討した経緯はあるが、現時点で積極的に看取りを導入する状況にはない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	月例ミーティングでご利用者様の状態を確認し予測される事等を話し合っている。また、定期的に研修を行い急変時の対応が出来るよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年に2回開催しており、地震からの火災なども予測して避難誘導を実施している。消防署立ち合いを行い指導や意見を頂いている。コロナ禍の為、地域の方の参加を控えている。	年2回、火災、地震を想定した訓練を、そのうち1回は夜勤帯を想定した訓練を行い、その際には消防署の立ち合いをお願いしている。訓練実施にあたっては事前に近所にお知らせしているが、コロナ禍の中訓練参加の呼び掛けは控えている。グループホームが2階(小規模事業所が1階)であるため、以前から「利用者の動きを含めた災害時の避難対応」が課題と認識しており、消防署から対応策の指導を得ている。事業所の地域は、防災備蓄として、食料は常時3日分程度、缶詰、飲料水などを備蓄し、カセットコンロ、反射式ストーブ、発電機を備えている。	消防署が近傍にあることから、緊急時にも早期の対応が可能とは思われるが、階段踊り場が狭いことなど、実際の場面での2階からの確実な避難が難しいとも想定される。実際の場면을想定しながら、夜間の災害発生時の避難誘導などへのご近所の協力推進(避難訓練の見学などを通して事業所への理解、協力等)を含め、一層の避難時の安全性担保が得られるよう期待します。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄や日常的なケアなどプライバシー保護に配慮している。ご利用者様の名前ではなく居室名称や医療用語を使い工夫している。また、地元言葉を使用する等コミュニケーションを図り把握し対応を行っている。	利用者に配慮して、医療用語や利用者の室名(アルファベット)などを使用するようにしている。出来るだけ、普段使いの言葉や方言を使いながら、入浴を苦手な方の誘導などにも周りを意識して声掛けしている。利用者によっては、声の掛け方や、受け止めから不穏になることもあるため、信頼関係づくりにも気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の表情や仕草、意思を組み取り会話など日頃から出来るよう努めている。自己決定できるよう利用者様のペースで出来るよう対応を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人一人の生活リズムを尊重し、可能な限り対応を心掛けている。入浴、食事、レクリエーション等無理強いせず対応を行っている。拒否などが見られた場合は、理由や改善案等をその都度情報共有している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の天候や気温に配慮しながら利用者様と服を選んでいく。美容室等行きつけがあれば、可能な限り継続して利用して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に一度、手作りの昼食をご利用者様と一緒にメニューを相談し楽しみながら行っている。配食サービスを利用しており、ご利用者様が目でも楽しんで頂けるよう旬の野菜や果物を追加している。	日々の食事は冷凍の配食サービスを使い、ご飯、汁物は職員が調理し、米研ぎやみそ汁の具材の切り方などは利用者に手伝ってもらっている。月1回の手作りランチのほか、おやつ作り、花見会、ひな祭り会、敬老会、正月などのイベントでは、調理方法を教えてもらったり、盛り付けを一緒に行っている。自家菜園で収穫した野菜や、家族・職員から提供を受けた食材も食事に活用している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事や水分摂取量を記録している。また入居者様に合った食事量や食形態に配慮し、誤嚥などの防止等の見守りや介助、声掛けを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアについて社内で勉強会を行い、口腔ケアの重要性等を学び実践している。ご利用者様の負担にならないよう工夫し、口腔内の状態を良好に保つよう努めている。また入居者様に合った口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食事の前後などに、トイレ誘導や声かけを行っている。また、定期的に清拭やパッドやリハパンを確認・適宜交換を行い、清潔保持に努めている。	トイレは、共用で2カ所設置している。ほとんどの利用者は尿意があり、自分でトイレで排せつしている。着衣、脱衣時にふらつきがある方は、付添い、見守り、拭き取りなど一部を介助している。夜間にトイレを使う方は、靴を履く際にセンサーで確認し、職員が見守りをしている。夜間の睡眠を優先し、清拭等で清潔の保持に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は配食サービスを使用しているので、味噌汁や付け合わせ、果物等食も繊維を多く摂れるように献立に組み込んでいる。また、水分不足にならないよう水分摂取を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	定期的に入浴を勧めるほか、入居者様の希望に沿う形で足浴や全身清拭などの対応を行っている。	概ね週3回、午前中に入浴を提供し、全身のチェックの機会にもしている。湯船に入りたがらない方は、無理せずシャワー浴にしている。夏場などの入浴のない日は、足浴も行っている。常時2種の入浴剤を用意し一番湯の方に選んでもらっているほか、職員とのマンツーマンの時間でもあることから、昔話などを聞かせてもらうコミュニケーションの時間にもなっている。異性介助へのこだわりのある利用者いない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中体操やレクリエーション、創作、家事手伝いなどに取り組んで頂けるよう声掛けや参加を促し、日中の活動量を増やす事で夜間の睡眠に繋げる工夫を行っている。眠れないご利用者様の対応として傾聴や見守りを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	通院や服薬等の情報をまとめたファイル等を確認し情報共有を行っている。服薬の手順を確認し誤薬や服薬忘れ等に注意しながら服薬介助を行っている。		

事業所名 : グループホーム ぼっかぼか花巻中央

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人一人の得意、不得意を確認し、スタッフ間で情報共有する事で、家事手伝い、創作の作業をお願いし、支援や声掛け、見守りを行い作業に取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブで田んぼアートや足湯、祭りの見学など季節を感じながら気分転換や楽しみに繋がり、地域の方やご利用者様同士のコミュニケーションの場にもなっている。	外出の機会が減ったことから「訪問販売」を取入れ、買いたい品物を選び、お金の支払い、釣り銭の受け取りなど買い物を楽しんでいる。石鳥谷の田んぼアート、花巻温泉の足湯に出掛ける機会を設けている。室内でも、夕涼み会、ブドウ狩り、スイカ割りなど、工夫を加えながら季節を味わってもらっている。事業所敷地に桜の木があり、桜の時期に施設内での花見をしたり、花壇の花植え、草取りなど、利用者に手伝ってもらっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段は事務所で小遣いをお預かりし管理を行っている。月に2回施設で訪問販売があり、その時に好みのおやつ等の購入を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様と電話や状況に合わせた面会を行っている。また年賀状や暑中見舞い等作成しご家族様とやり取りを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの温度調整や明るさ等利用者様に合わせ快適に過ごせるよう椅子などを配慮をしている。また、季節を感じられるような創作物や利用者様の作品等を飾るなど行っている。	共有のフロアーには、畳敷きの小上がりの和のスペースがあり、窓越しに敷地の桜や花壇を眺めることができる。壁面には、干支にちなんだウサギ、椿の花などのペーパークラフトなどが飾られ、毎月テーマを決めて、利用者が創作した作品を展示している。正月には、書初めや生け花なども展示し、利用者個々に得意な面を活かしながら、居場所づくりにもなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	小上がりの和室やフロア以外の場所にも椅子を置きいつでも過ごせるようにしている。ベランダから見る外の景色の眺めがよく、近くに椅子を配置している。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ぼっかぼか花巻中央

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている	ご利用者様の使い慣れた家具などを持参し、居 心地よく過ごして頂けるよう配置の工夫を行っ ている。自室には、ご家族様との写真等を飾っ ている。	居室はエアコンにより空調管理され、備え付けの ベッドがある。引出し式衣装ケース、鏡台、ハン ガースタンドなどの家具のほか、テレビ、時計、 写真など一人一人使い慣れた物品を持ち込んで いる。居室内の清掃は、利用者にも手伝ってら うこともあるが、消毒は職員が行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づ くり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わ かること」を活かして、安全かつできるだけ 自立した生活が送れるように工夫している	玄関や浴室などにスロープ、手すりを設置し、 ベッドには介助バーを取付け安全の確保や促進 に努めている。施設内にはエレベーターと階段が あり、利用者様の能力に応じて使用している。		